

肺炎球菌感染症とは？

肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血液中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

予防接種の効果・接種後の注意

令和8年度よりワクチンが変更となり、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)を用いて、1回筋肉内に接種します。

肺炎球菌には100種類以上の血清型があり、この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症の原因の約5～6割を占めるという研究結果があります。また、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。*侵襲性感染症とは、本来菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

予防接種後30分程度は安静にしてください。接種した部位は清潔にし、接種当日の激しい運動は控えてください。接種当日の入浴は問題ありません。体調に異常を感じた場合は速やかに医師へ連絡してください。

接種できない方

ジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方、明らかな発熱、重篤な急性疾患、予防接種を行うことが不適当な状態にある方は接種できません。

接種に注意が必要な方

免疫不全と診断されている方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、心臓血管系疾患・腎臓疾患・肝臓疾患・血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある方、過去にけいれんを起こしたことがある方、今回のワクチンの成分やジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈する恐れのある方、血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている方は接種に注意が必要です。

他のワクチンとの接種について

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。

副反応について

肺炎球菌予防接種後に次のような副反応がみられることがあります。頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。接種部位の疼痛・圧痛(59.6%)、筋肉痛(38.2%)、疲労(30.3%)、頭痛(21.7%)、関節痛(11.6%)、紅斑・腫脹(1%以上)

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へご相談ください。

健康被害救済制度について

予防接種は感染症を予防するために重要なものですが、健康被害が起こることがあります。極めてまれではありますが、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、予防接種健康被害救済制度が設けられています。重篤な副反応が生じ、厚生労働大臣が予防接種と因果関係があると認めた場合に救済制度が利用できます。詳しくは健康推進課にお尋ねください。

問い合わせ先： 土岐市 健康福祉部 健康推進課(保健センター)

TEL 0572-55-2010